

専門研修プログラム名	北里大学病院精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	北里大学病院	
プログラム統括責任者	稲田 健	

専門研修プログラムの概要	本研修プログラムは、どのような精神疾患のどのような時期にも対応できる精神科医を育成することを目標としている。プログラムにおいて学ぶ対象者の年齢層は、未就学児から児童思春期、成人期、老年期まですべての年代をカバーする。また治療場面は、措置入院などを含む急性期・救急医療から、リハビリテーションや地域支援を含む維持期精神医療、医療以外の精神保健福祉センター、学校保健、療育センター、職域産業保健などでの治療および診療、相談場面を含む。治療技法は、薬物療法のみならず、面接やコミュニケーション技術、心理教育、社会資源の活用などの心理社会的治療の研鑽にも力を入れている。指導スタッフは、重要な領域を網羅するように各方面の専門家で構成された包括的なプログラムである。
専門研修はどのようにおこなわれるのか	専攻医1、2年目は、本研修プログラムの基幹施設である北里大学病院精神神経科において研修し、精神科医としての基本的な知識と技術を身につける。専攻医は入院患者の受持医となり、指導医からのマンツーマンでの指導を受けながら、的確な診断と適切な治療の過程を学ぶとともに、看護師、心理士、ソーシャルワーカー、作業療法士、薬剤師などとチーム医療を実践する。他科に入院・通院中に精神症状ないし心理的問題が出現した患者への対応を行うリエゾン・コンサルテーションについても学ぶ。また、指導医の助言を受けながら、主治医として外来診療を担当する。 専攻医3年目には、基幹施設もしくは専門研修連携施設である公的もしくは民間の精神科病院で研修を行う。指導医のスーパーバイズを受けながら、単独で入院患者の主治医となり、責任を持った医療を遂行する能力を学ぶ。また、地域連携、地域包括ケアの実践を主治医として体験することにより、地域医療の実践を学ぶとともに、地域における精神医療の役割を学習する。公的・民間精神科病院以外の研修先として、北里大学メディカルセンター（埼玉県北本市）などの北里大学関連の病院、横浜市こころの健康相談センターや相模原市精神保健福祉センターなどの精神保健機関などがある（本研修プログラムの専門研修連携施設の概要については、詳しい専門研修概要URLにある「北里大学病院精神科専門医研修プログラム 研修連携施設概要」を参照）。全ての年次において、日本精神神経学会をはじめとする諸学会の講習などへの参加が奨励されるとともに、学会発表や論文投稿などの機会が与えられる。以上が、基本的な研修プログラムの流れとなるが、3年間のローテーション順や期間については、専攻医の希望により、児童精神医学、老年精神医学、依存・嗜癖などの各専門領域をより多く学べるように研修計画を立てることも可能である。また、専攻医の経済的事情、結婚や出産・育児などに応じて柔軟に対応することも可能である。さらに、3年間のプログラム修了後にも、北里大学病院においてサブスペシャリティを見据えた研修を継続することや、大学院に進学して学位を取得する道も用意している。

専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	専攻医は、精神科領域専門医制度にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。① 患者及び家族との面談、② 精神疾患の概念と病態の理解、③ 診断と治療計画、④ 補助検査法（CT、MRI、脳波、脳脊髄液検査、心理検査など）、⑤ 薬物療法・身体療法（修正型電気けいれん療法）、⑥ 精神療法、⑦ 心理社会的療法、精神科リハビリテーション、地域精神医療・保健・福祉、⑧ 精神科救急、⑨ リエゾン・コンサルテーション精神医学、⑩ 法と精神医学（医療法、精神保健福祉法、心神喪失者等医療観察法、成年後見制度など）、⑪ 医の倫理（人権の尊重とインフォームド・コンセント）、⑫ 安全管理・感染対策
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	月2回の定例の研究会とは別に、各研究グループによる研究会や勉強会（児童・思春期精神医学、老年精神医学、産業精神医学、アルコール・薬物依存症、電気けいれん療法、司法精神医学など）も開催されている。症例検討会を含めたこれらの研究会には、連携施設で研修している際も参加することができる。また、専攻医が習得すべき必須事項についてのクルズスはオンラインを活用し、神奈川県内全域の関係者による合同勉強会として開催する。
	学問的姿勢	専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められる。受持ち患者の診療で浮かび上がってきた疑問や問題点を放っておかず、指導医に質問したり、教科書や論文を読んだりすることで、解決の糸口を見つけようとする姿勢が求められる。さらに、その過程で、過去の類似症例を文献的に調査するなどの自ら学び考える姿勢を心掛ける。また、研修基幹施設で行われている各研究グループによる研究会や勉強会に積極的に参加し、知識を深める。また、北里大学病院の精神神経科医局のインターネットから、北里大学医学部の医学図書館のホームページにアクセスすることで、多種多様な電子ジャーナルを閲覧することが可能であるほか、医局内には、たくさんの学術雑誌や図書、DVDなどが所蔵されており、それらを利用して自己学習を行う。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	研修期間を通じて、「患者・医師関係の構築」、「チーム医療の実践」、「安全管理」、「症例プレゼンテーション技術」、「医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解」を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。北里大学病院で開催される医療倫理、医療安全および感染対策の講習会に参加し、それらの知識を深める。社会人として常識のある態度や素養が求められることはもちろん、患者中心の医療を実践し、その人権を尊重した適切な医療を遂行する。他職種で構成されるチーム医療を実践し、リエゾン・コンサルテーション症例を通して、他科との連携を持ち、医師としての責任や社会性、倫理観などについても学ぶ。北里大学病院倫理委員会主催の講習会やセミナーなどにも参加する。

施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	【1年目】研修基幹施設である北里大学病院で、指導医と一緒に入院患者を受け持ち、良好な治療関係を築くための面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学習する。行動制限の手続きなど、基本的な法律の知識を学習する。また、症例検討会などで自分の患者について発表・討論する。【2年目】北里大学病院あるいは専門研修連携施設で、指導医の指導を受けつつ、より自律的に面接の仕方を深め、診断と治療計画策定の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させる。専門的な精神療法として認知行動療法と精神力動的な精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。緊急入院の症例や措置入院患者の診察に立ち会うことで、精神医療に必要な法律の知識について学ぶ。他科に入院・通院中に精神症状ないし心理的問題が出現した患者への対応を行うリエゾン・コンサルテーションについても経験する。また指導医の助言を受けながら、主治医として外来診療を担当する。学会で発表の機会をもつ。【3年目】基幹施設もしくは専門研修連携施設で、指導医のスーパーバイズを受けながら、単独で入院患者の主治医となり、責任を持った医療を遂行する能力を学び、指導医から自立して診療できるようになる。薬物療法、認知行動療法や精神力動的な精神療法を上級者の指導の下に実践する。慢性統合失調症患者等を対象とした心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。外部の研究会や学会などで積極的に症例発表する。
	研修施設群と研修プログラム	研修連携施設は以下の全19施設にわたる。神奈川県：愛光病院、久里浜医療センター、けやきの森病院、港北病院、相模ヶ丘病院、相模原市精神保健福祉センター、秦野厚生病院、秦野病院、大和病院、横浜市こころの健康相談センター、相州病院。東京都：駒木野病院、鶴が丘ガーデンホスピタル、成増厚生病院、よしの病院、恩方病院、桜ヶ丘記念病院。埼玉県：北里大学メディカルセンター、埼玉県立精神医療センター。各施設における研修プログラムの詳細は専門研修概要URLにある「北里大学病院精神科専門医研修プログラム内の資料（研修連携施設概要）」を参照。
	地域医療について	基幹施設あるいは連携施設において、地域連携、地域包括ケアの実際を主治医として体験することにより、地域医療の実際を学ぶとともに、地域における精神医療の役割を学習する。
専門研修の評価	専攻医に対する指導内容は、統一された研修記録簿に記載して、専攻医と情報を共有するとともに、専門研修プログラム管理委員会で定期的に評価し、改善を行う。研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受けるとともに、専攻医も自身の形成的評価を行い、記録する。当該研修施設の指導医と専攻医がその研修施設での研修修了時に、研修目標の達成度を評価し、フィードバックする。但し、1つの研修施設での研修が1年以上継続する場合には、少なくとも1年に1度は評価し、フィードバックすることとする。また、その専攻医評価時には、各施設の研修責任者は、専攻医から、専門研修プログラムや指導医の評価について意見を聞く機会を設ける。そして、研修責任者は、1年に1回、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況、専攻医の評価、指導医ならびに研修プログラムの評価を、専門研修プログラム管理委員会に提出する。	

修了判定	研修期間最終年度末に、専攻医が到達目標および経験目標を達成したかどうか評価する。評価は、専門研修プログラム管理委員会が行い、専門研修プログラム統括責任者は、専門研修プログラム管理委員会による修了可否判定の結果を参考にして、修了の可否を決定する。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	研修基幹施設である北里大学病院精神神経科に専門研修プログラム管理委員会を置き、研修プログラム連携施設担当者と協力して、個々の専攻医の研修状況について管理・改善を行う。
	専攻医の就業環境	各施設の労務管理基準に準拠する。
	専門研修プログラムの改善	専門研修プログラム管理委員会にて、プログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。
	専攻医の採用と修了	専門研修プログラム管理委員会が主導し、採用および修了の評価を行う。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	専門研修プログラム管理委員会が主導し、研修の休止あるいは中断、プログラム移動に対する評価を行う。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	専門研修管理委員会は日本精神神経学会・専門医機構によるサイトビジット・調査に応じ、そこでなされた指摘に関して調査しプログラムおよび就業環境等の改善を図る。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	稲田健（北里大学病院、主任教授）、大石智（北里大学病院、講師）、村岡寛之（北里大学病院、講師）、澤山恵波（北里大学病院、講師）、廣岡孝陽（北里大学病院、助教）、斉藤善貴（北里大学病院、助教）、鈴木龍太郎（北里大学病院、特任助教）	
Subspecialty領域との連続性	3年間のプログラム修了後にも、北里大学病院においてサブスペシャリティを見据えた研修を継続することや、大学院に進学して学位を取得する道も用意している。	